

中学校の保護者の皆様へ

# 家庭学習のすすめ



香取市教育委員会

「家庭学習のすすめ（リーフレット）」

家庭学習によって、次のような効果が期待できます。



## その1 学習したことがしっかりと身に付きます！

学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることが出来ます。また、予習することも大切です。予習は授業を分かりやすくします。

特に漢字や計算などは、毎日繰り返し練習することで定着していきます。学校で「分かった」ことが、反復練習によって「できる」という自信につながります。

## その2 脳の働きがよくなります！

読み・書き・計算を毎日繰り返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように毎日繰り返し使うことで活発に働くようになるのです。鍛えれば鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことに順応できるようになります。今のうちからどんどん脳を鍛えたいものです。

## その3 学習する習慣が身に付きます！

毎日、一定時間、決まった場所で家庭学習を続けることにより、自ら進んで学習する習慣が身に付きます。毎日続けることで、やがて、あたりまえの習慣になり、学ぶ力が大きく伸びていきます。毎日欠かさず家庭学習をするという習慣を続けさせてください。

## その4 忍耐力・根気・集中力が高まります！

家庭学習の最大の敵は、テレビや携帯電話（スマートフォン）、ゲームなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことにより、我慢強さ、根気、集中力を養うことが出来ます。テレビや携帯電話（スマートフォン）、ゲームなどの時間を決めることで、学習や読書等に集中できる時間をしっかりと確保することが必要です。

## 家庭学習の習慣化 3つのポイント



家庭でできることは、家庭学習の環境づくりです。まずは、家族が協力し合って、学習習慣が身に付くような場づくりから始めましょう。

### ポイント1 生活のリズムを整えましょう

- ① 「早寝・早起き・朝ご飯」や朝の排便など、規則正しい生活を送らせましょう。
- ② 規則正しい食習慣をつけ、基礎体力をつけさせましょう。
- ③ テレビや携帯電話（スマートフォン）、ゲームの時間などの決まりをつくり、約束事を守らせましょう。

### ポイント2 学ぶ雰囲気をつくりましょう

- ① 学習は、静かで集中できる環境で取り組むことが大切です。学ぶ雰囲気づくりは、家族の協力が必要となります。
- ② 身の回りの整理整頓をさせましょう。学習の場は、学習に使うものだけを置くようにし、ゲーム機やマンガなど気の散るようなものは近くに置かないようにさせましょう。

### ポイント3 子どもとの対話を深めましょう

- ① 学校での出来事や学習の様子を聞き、子どもががんばっていることや困っていることを理解するようにしましょう。
- ② 新聞記事やニュースなどを話題にして、社会へ目を向けさせましょう。
- ③ お互いにおすすめの本を教え合うなど、読書への関心を高めましょう。

## 学力形成は生活習慣から

お子様の学力形成には、学習の習慣はもとより生活習慣も大きく関わっています。成績の伸び悩みの要因の一つに、「ルーズな生活態度」があります。つまり、「やるべきことを怠けてやらない」とか「やっても雑だったり、いい加減なやり方だったり」すると成績が伸びないということです。反対に、「早寝・早起き・朝ごはんの習慣」や「自主的な家庭学習」が身に付いている生徒は平均正答率がよいという結果が全国学力・学習状況調査から明らかになっています。

学力の差は、こうした取り組み方の差から出てくることからみても、ご家庭で「粘り強く、投げ出さないで取り組む姿勢や生活態度」をサポートしてあげてください。



eライブラリを活用して、基礎力を高めましょう！  
ご家庭のパソコンから「ラインズeライブラリ」の家庭学習サービスが利用できます。

アドレス「katei.kodomo.ne.jp」

ID・パスワード等は学校にお問い合わせください。



### 【チャレンジメニュー】

#### <課題をもって自ら学ぶ力がアップ！>

- ・学習した内容を振り返り、自分の言葉（文章）でまとめる。
- ・学習した内容から自分で問題を作って解いてみる。
- ・新聞を読んで世の中の動きに目を向ける。新聞や雑誌などの短い文章の記事を読んで要旨とそれに対する自分の考えを書く。
- ・いろいろなジャンルの本を読む。友達や家族とおすすめの本を紹介し合うことで読書の幅を広げる。（物語、古典作品、伝記、科学読み物、詩集、図鑑 など）
- ・読んだ本について内容や感想について書く。

#### <思考力・記述力・がアップ！>

- ・「〇〇字くらいでまとめてみよう」など字数を制限し要約する問題に取り組む。（国語）
- ・数学の問題を解く際に、解決のための方法や手順の説明を自分の言葉で書いてみる。必要に応じて図や表、グラフを活用してより分かりやすく書く。（数学）
- ・表やグラフなどの資料から情報を読み取って分かったことを書く。（社会・理科）
- ・1日の出来事を3文（①どこに行き②何をして③どうだったか）英語日記でまとめる。（英語）
- ・教科書の基本文や教科書本文にプラス1文を加え、オリジナル英文を作る。（英語）

#### 目的に応じて教科書を活用しましょう！

教科書にはさまざまな問題があります。「苦手な教科なので基礎をしっかり身に付けたい」「活用問題が苦手なので、より発展的な問題に取り組みたい」など、その日の学習の目標に応じて、教科書の問題を活用し、学力を高めましょう。



#### 【教科書にある発展的な問題の例】

- （国語）巻末にある「学びのチャレンジ」に取り組む。
- （数学）各章のまとめの問題にある「応用」「活用」問題に取り組む。
- （社会）各章の終わりにある「学習のまとめと表現」に取り組む。
- （理科）単元末問題の中の「読解力問題」に取り組む。
- （英語）巻末にある「Review Reading」「Extensive Reading」を読む。

# 自主学習 チャレンジコーナー中学生

- ☆ 宿題から自主学習までの流れの例を示してみました。
- ☆ お子様が実際に取り組むときの参考となれば幸いです。

**・まず、宿題です。宿題が終わったら次から選んでチャレンジできるように励ましてください。**

【基礎力アップメニュー】

千葉県教育委員会では、学庭学習事例集（プリント素材）を提供していますので参考にしてください。

（<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/2011/kateigakushuu.html>）

共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の授業内容について教科書を読んだり、問題を解いたりしてみる。</li> <li>・ 1日の授業を振り返り、問題を解き直したり、学習した内容をノートに整理したりする。</li> <li>・ 教科書に太字で紹介されている「重要語句」の意味や内容についてノートにまとめる。</li> <li>・ 教科書やテストなどで間違えた問題は、ノートに書き写し、解き直して、同じ間違いをしないようにする。</li> </ul>
----	--

## 復習・予習の習慣を身に付けましょう！

復習することで、より確実に知識が身に付きます。

予習をして見通しを持つことで、次の日の授業がよりわかりやすくなります。



国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字練習を繰り返し行う。</li> <li>・ 新出漢字の意味を理解し、正しく用いた短文を考えて書く。</li> <li>・ 教科書の音読をする。古典は独特のリズムを意識して読む。</li> <li>・ 主語、述語の関係や品詞の分類など文法についてまとめる。</li> <li>・ 読めない字や意味の分からない言葉があれば辞書を使って調べる。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算練習を繰り返し行う。</li> <li>・ 授業で扱った例題を解き直す。解き終わったら、類題（同じ種類の問題）に取り組む。</li> <li>・ 間違えた問題は、どこで間違えたかを確認し解き直してみる。その際、誤答は消さずにチェックを入れながら解き方を考える。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史上の人物や関連する出来事についてまとめる。</li> <li>・ 政治の仕組みや文化など、各時代の特徴についてまとめる。</li> <li>・ 教科書や地図帳を使って地名や位置、気候の特徴などを覚える。</li> <li>・ インターネットを活用して、さまざまな土地の実際の様子（写真や映像）を調べる。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察や実験の方法について、ねらいと関連付けてまとめる。</li> <li>・ 観察や実験の結果と考察についてまとめる。</li> <li>・ 授業で使用した実験器具や薬品の名称や使い方、注意事項などについてまとめる。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書本文を音読し、暗唱できたら、その英文を書き出してみる。</li> <li>・ 新出単語は声に出し、書いて覚え、文章にして活用できるようにする。</li> <li>・ 英語の語順を意識して、基本文を声に出し、書き出してみる。</li> </ul>